



TITLE:

# 巨大精巣類表皮嚢胞の1例

AUTHOR(S):

天野, 俊康; 松井, 太; 高島, 博; 竹前, 克朗

---

CITATION:

天野, 俊康 ...[et al]. 巨大精巣類表皮嚢胞の1例. 泌尿器科紀要 2002, 48(6): 371-373

ISSUE DATE:

2002-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114766>

RIGHT:

# 巨大精巣類表皮嚢胞の1例

長野赤十字病院泌尿器科 (部長 : 竹前克朗)

天野 俊康, 松井 太, 高島 博, 竹前 克朗

## A CASE OF GIANT EPIDERMOID CYST OF THE TESTIS

Toshiyasu AMANO, Futoshi MATSUI, Hiroshi TAKASHIMA and Katsuro TAKEMAE

From the Department of Urology, Nagano Red Cross Hospital

A 79-year-old man visited our clinic with complaints of left scrotal swelling. Ultrasonography revealed solid tumor with heterogeneous echogenicity. No other abnormal findings were observed including tumor markers. However, the tumor was very large and the diagnosis of malignant testicular tumor could not be excluded. Therefore, orchiectomy was performed. Histological diagnosis was 820-gram epidermoid cyst of the left testis.

(Acta Urol. Jpn. 48 : 371-373, 2002)

**Key words :** Giant epidermoid cyst, Testis

### 緒 言

精巣類表皮嚢胞は、全精巣腫瘍の約1%を占める比較的稀な疾患であり<sup>1)</sup>、40歳未満の若年者に多く<sup>2)</sup>、精巣悪性腫瘍との鑑別に苦慮することが多い。今回われわれは79歳と高齢者に発症した巨大精巣類表皮嚢胞の1例を経験したので報告する。

### 症 例

患者 : 79歳, 男性

主訴 : 左陰嚢部腫瘍

既往歴・家族歴 : 特記すべきことなし

現病歴 : 約6~7年前より左陰嚢内の腫瘍に気づくも放置していた。無痛性であるが、徐々に大きくなってきたため、2001年8月24日近医を受診し、8月27日当科紹介となる。

初診時現症 : 身長 154 cm, 体重 72.1 kg, 体温 36.6°C。

胸部、腹部には特に異常を認めず、左陰嚢内容は小児頭大の硬い無痛腫瘍を触知した。右陰嚢内容は異常を認めなかった。

検査成績 : 検尿, 検血, 血液生化学いずれも異常を認めず。LDH, HCG $\beta$ , AFPなどの腫瘍マーカーもいずれも正常範囲内であった。陰嚢部USGでは、左陰嚢内に充実性で内部エコーやや不均一で大きい腫瘍を認めた (Fig. 1)。

経過 : 左精巣腫瘍を疑い、2001年8月29日に当科入院し、8月30日腰椎麻酔下で左精巣摘除術を施行した。

摘出標本 : 摘出物は820 gで、左精巣は超手拳大の嚢胞と化し、白色~淡黄褐色の脆い残渣様物質を容れ

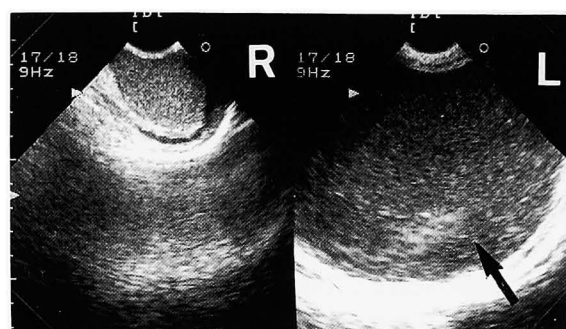


Fig. 1. Ultrasonography revealed right normal testis (R) and giant left solid testicular tumor (L) with heterogeneous echogenicity (arrow).

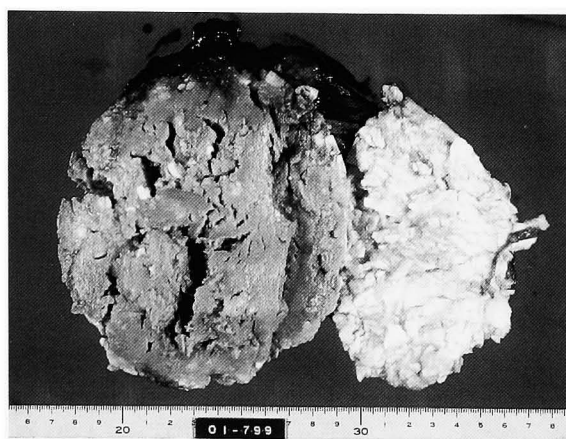


Fig. 2. Gross appearance of the left testis showed a mass 820 grams in weight, containing white fragile substance.

ていた (Fig. 2)。組織学的には、内容物は層状の角化物質であり、嚢胞内面は顆粒層を有する重層扁平上皮に覆われていた。壁は比較的厚い線維組織からなっ



Fig. 3. Histological examination demonstrated the cystic mass supported by fibrous tissue (A) and filled with keratinizing material (B) (H & E  $\times 10$ ).

おり、小さなリンパ濾胞が散見された。皮脂腺、毛包などは認められなかった (Fig. 3)。

以上より、精巣類表皮嚢胞と診断された。術後5カ月にて転移、再発を認めていない。

### 考 察

類表皮嚢胞 (epidermoid cyst) は、皮膚、中枢神経などに発生し、嚢胞壁は角化扁平上皮とそれを囲む線維性組織よりなり、内腔に角化硝子様物質を含んだ良性腫瘍あるいは腫瘍状病変とされる<sup>2)</sup>。精巣における類表皮嚢胞の定義として線維組織で覆われた嚢胞で、中に層状の角化物質を含むなど4項目の Price の診断基準が汎用されている<sup>3)</sup>。本症例も組織学的に精巣上皮嚢胞と診断された。

精巣類上皮嚢胞の好発年齢は、10～39歳が約76%を占め、10～20歳代にピークを認める<sup>2)</sup>。Price の集計した69例中、45歳以上は1例のみで<sup>3)</sup>、布施らが82歳の高齢者に発症した精巣類表皮嚢胞を報告しているが<sup>4)</sup>、今回の症例はそれに次ぐ高齢者の発症例と考えられた。嚢胞の大きさは0.8～10 cm、平均2.3 cmで、3 cm以下のものが約70%を占めている<sup>5)</sup>。したがって、若年者に発症した精巣類表皮嚢胞において、悪性腫瘍との鑑別と、精巣の温存という点が問題になる。術前診断として超音波検査が有用であるが必ずしも特異的でなく、術前に良性腫瘍と診断されたものは5%にすぎず<sup>5)</sup>、治療法も83%で精巣摘除術が行われているのが現状である<sup>6)</sup>。精巣腫瘍の術前鑑別診断には、腫瘍マーカー 超音波検査、CT および MRI 検査が有効であるが、精巣類表皮嚢胞では超音波とMRI の所見が特徴的とされている<sup>7)</sup>。精巣類表皮嚢胞の超音波所見では嚢胞被膜は低～高輝度エコーで内部は不均一な低輝度エコー、MRI では嚢胞被膜はT1、T2ともに低信号、嚢胞内部はT1で精巣実質と等信号、T2で中心が低信号、周囲が高信号とされて

いる。さらに術中の迅速病理検査なども行い、鑑別可能な症例に対しては精巣温存を考慮すべきである。われわれも以前23歳男性に発症した精巣類表皮嚢胞を経験し、術前悪性腫瘍が否定できず精巣摘除術を施行した症例を報告しているが<sup>8)</sup>、現段階では、本疾患は稀であり、10歳代後半から30歳代にかけての陰嚢内腫瘍は悪性腫瘍が最も多く、上記の検査結果をもってしても確定診断がつかなければ、手術的に切除せざるをえない場合もあると考えている。

今回は79歳男性に発症して、しかも820 gと巨大であり、その大きさから排尿など含め、日常生活にも支障になっていた。術前診断でも年齢や腫瘍マーカーなどから、陰嚢水腫の器質化などの良性疾患を疑ったが、悪性腫瘍も完全に否定できず、精巣摘除術を施行した。

巨大精巣腫瘍の定義として、正常の精巣重量約20 gの20倍で、400 g以上とされている<sup>9)</sup>。本症例も820 gの重量があり、巨大精巣類表皮嚢胞として差し支えないものと考えられた。

比較的稀な疾患であるが、高齢者の陰嚢内腫瘍の鑑別診断として、精巣類表皮嚢胞も念頭に置くことも必要である。精巣類表皮嚢胞は良性疾患であり、精巣を温存に心がけるべきであるが、巨大な腫瘍で高齢者である本症例のように、手術的に切除せざるをえない場合もあると考えられた。

### 結 語

79歳、男性に発症した巨大な精巣類表皮嚢胞の1例を報告し、若干の文献的考察を加え報告した。

本論文の要旨は、第395回日本泌尿器科学会北陸地方会において報告した。

### 文 献

- 1) Shah KH, Maxted WC and Chun B: Epidermoid cyst of the testis: a report of three cases and an analysis of 141 cases from the world literature. *Cancer* **46**: 577-582, 1981
- 2) 平塚義治, 石井 龍: 睪丸類表皮嚢胞. 取扱い規約に沿った腫瘍鑑別診断アトラス, 「睪丸」. 藍沢茂雄編. pp. 94-95, 文光堂, 東京, 1992
- 3) Price EB: Epidermoid cyst of the testis: a clinical and pathologic analysis of 69 cases from the testicular tumor registry. *J Urol* **102**: 708-713, 1969
- 4) 布施春樹, 長野賢一, 徳永周二, ほか: 睪丸類表皮嚢胞の1例. *西日泌尿* **51**: 1293-1296, 1989
- 5) 佐藤英一, 吉岡俊昭, 中野悦次, ほか: 精巣類表皮嚢胞—精巣を温存した1例—. *西日泌尿* **57**: 1117-1119, 1995
- 6) 宮崎 裕, 佐藤敬悦, 佐藤良延: 睪丸類表皮嚢胞の1例. *日泌尿会誌* **84**: 972-973, 1993

- 7) 敦川浩之，岡村廉晴，井上裕満，ほか：精巣類表皮嚢胞の1例．泌尿器外科 **14**：687-690，2001
- 8) 天野俊康，三田絵子，藤田 博，ほか：精巣類表皮嚢胞の1例．西日泌尿 **59**：610-612，1997
- 9) 児島真一，佐竹一郎，田利清信，ほか：巨大睾丸腫瘍の3例．埼玉医会誌 **21**：1282-1286，1987  
(Received on January 18, 2002)  
(Accepted on March 7, 2002)